

平和

NO	タイトル	時間	ビデオ媒体	字幕等	所管
1	核戦争後の地球「地球炎上」	30分	VHS	—	人権啓発課
	(1984年) 全面戦争から一週間の地球の惨状を描く。世界の主要都市に1メガトンの原爆が落ちたらどうなるかを科学的データに基づいて想定し、核の被爆を映像化する。				
2	核戦争後の地球「地球凍結」	30分	VHS	—	人権啓発課
	(1984年) 核戦争から約100年後まで影響する地球の環境変化を描く。死の灰が地球を覆うと人類や生物に大変な影響がある。シュミレーションを映像にしたもの。				
3	戦争—「子どもたちの遺言」	53分	VHS	—	人権啓発課
	(1984年) 「10フィート映画運動」の中で集められた映像を使って過去の戦争、特に空襲による被害と死を振り返りながら、皆殺し戦争を告発し、今日の核狂乱の時代を警鐘するビデオである。				
4	にんげんをかえせ	20分	VHS	—	人権啓発課
	(1982年) 「10フィート映画運動」の中で集められた映像を使って永久に核兵器がなくなるように願いを込めて作ったビデオである。				
5	予言	42分	VHS	—	人権啓発課
	(1982年) この映画は「10フィート映画運動」の中で作られた作品です。アメリカの国立公文書館所有の広島・長崎の被爆カラーフィルムを、市民の手で買い戻し、歴史的な資料として永久保存すると共に、当時の核兵器開発競争を報じるニュースを交え、核兵器廃絶を訴える記録映画として作成されました。				
6	おかあさんの木(アニメ)	22分	VHS DVD	—	人権啓発課
	(1986年) 戦場に7人の息子を送り出した母親は、彼等が手柄を立て無事に帰ってくるのを祈るが…。大川悦生原作の同名著書のアニメ化した作品です。				

7	なっちゃんの赤いてぶくろ(アニメ)	18分	VHS	—	人権啓発課
	(1987年) 昭和20年8月6日、広島。原爆の光に焼かれた。なっちゃんは長い歳月をかけ、少女のまま、一 児の母になった親友としちゃんと再会します……。明るいアニメを通して戦争や原爆の悲惨さを訴 えます。				
8	ムッチちゃんの詩	102分	VHS	—	人権啓発課
	(1985年) 空襲で孤児となった主人公。その主人公も結核に冒され人々から遠ざけられ、暗く冷たい防空壕 の中で12歳の生涯を閉じる。				
9	炎の証言～最後の空襲～	30分	VHS	—	人権啓発課
	(1996年) 太平洋戦争終結宣言の直前8月14・15日にも連合軍のB29爆撃機が次々と飛来し、全国20余都 市を空爆しました。その結果、多くの死傷者が出ました。このビデオは、僅か数日を境に生死を分 けた戦争の冷酷さ、悲惨さの記録です。				
10	炎の証言～これが空襲だった～	21分	VHS	—	人権啓発課
	(1992年) このビデオは先の大戦における日本本土への空襲(沖縄戦、広島・長崎の原爆被害は除く)の実 態や被害状況を、戦災都市で行われている慰霊祭や戦災体験者の証言をもとに作成したもので す。				
11	炎の証言～打ち続いた空襲～	30分	VHS	—	人権啓発課
	(1997年) アメリカ軍の日本本土への攻撃は、昭和20年8月15日正午の玉音放送が始まる直前まで続き、 一般市民だけでも数十万の方が犠牲になりました。				
12	炎の証言～戦争と子どもたち～	25分	VHS	—	人権啓発課
	(1993年) 戦争は大人だけの戦いではありません。空襲で死亡した子どもたち。戦火を逃れ、親元を離れて の学童集団疎開。軍需工場での勤労働員。そして戦場に散っていった少年兵……。両親や兄 弟を失い、混乱の焼け跡を一人でけなげに生き抜いた孤児たちもいました。太平洋戦争は子ども たちも巻き込んでいったのです。				

13	炎の証言～戦争と女性たち～	27分	VHS	—	人権啓発課
	(1994年) 300万人を超える犠牲者を出した太平洋戦争。父、夫、息子を戦場に送り出し、女性たちはどのように生きたのでしょうか。このビデオは多くの血と汗を流し、苦渋と嗚咽の継続の中で生きた女性史の断片です。				
14	ヒロシマに一番電車が走った(アニメ)	30分	VHS	—	人権啓発課
	(1994年) 原爆投下の僅か3日後、広島に路面電車が走り出しました。戦争に行った男たちに代わって車掌を勤める少女たちは、傷つきながらも、生き残った人々のために電車に乗り込んだのでした。				
15	十六地蔵物語～戦争の犠牲になった子(アニメ)	26分	VHS	—	人権啓発課
	(1994年) 戦争が人々に残した傷はあまりにも深いものです。私たちは被害を受けただけでなく、近隣の国々に大きな被害を与えました。あれから半世紀・・・。				
16	火の海・大阪(アニメ)	20分	VHS DVD	—	人権啓発課
	(1994年) 1945年(昭和20年)無差別の空襲によって、多くの尊い生命を失いました。二度とこのような不幸な戦争を繰り返してはなりません。平和の尊さを訴えるアニメーション映画です。				
17	青い目の人形物語(アニメ)	30分	VHS	—	人権啓発課
	(1996年) 「青い目の人形」は、昭和初期、日米関係の悪化を心配した米国人宣教師が、米国の人形を「平和の親善大使」として日本に送ったものでした。その数11,970体。受け取った小学校では熱烈に歓迎されました。しかし、太平洋戦争が始まると、この敵国の人形は敵愾心をあおる格好の標的にされ、焼かれたり、踏み潰されたりしました。この物語はそんな時代の渦の中で、この人形と人形に込められた平和への願いを、命がけで守ろうとした女の子と先生のお話です。				
18	はとよ ひろしまの空を(アニメ)	21分	VHS DVD	—	人権啓発課
	(1999年) 太平洋戦争末期。家族とかわいがってくれた飼い主の少年を原子爆弾で亡くし、一羽残されたメスの小鳩は、やがてやさしいオス鳩に出会い、愛の巣をつくり共に卵をかえそうとします。焼け野原となった町を必死で生き抜こうとした鳩の姿を通して、改めて、命とは、平和とは何かを問いかけます。				

19	お母さんの声がきこえる	31分	VHS	—	人権啓発課
	(1989年) 東京大空襲の悲惨な体験をもとに平和を訴える作品。 戦争を知らない人々が70%を越えてきた今、恒久の平和のために、今こそ、子や孫たちに戦争の悲しさ、恐ろしさを語り継いでいかなくてはならない。そういう願いを込めて製作しました。				
20	おこりじぞう(人形アニメ)	28分	VHS DVD	—	人権啓発課
	(1985年) 昭和20年、広島に住むひろちゃんは「わらいじぞう」と呼ばれる笑い顔のお地蔵さんと大の仲良しでした。8月6日、その日はひろちゃんの6回目の誕生日、そして運命の日でした。いつものように「わらいじぞう」と遊ぶひろちゃん。柱時計が8時15分を指したその瞬間、ピカッと光ると同時にものすごい音と大爆発、一瞬で街が焼け野原になってしまいました。「みず・・・おかあさん・・・みず、ちょうだい・・・」と「わらいじぞう」にすぎるひろちゃんの背中は、大やけどです。その時いつもニコニコしていた「わらいじぞう」の顔が・・・。				
21	おかあちゃんごめんね(人形アニメ)	26分	VHS DVD	—	人権啓発課
	(1985年) 大阪の古い町、堺。泣き虫の絹ちゃんは身体のお母さんと、まだ小さな赤ちゃんのみち坊と3人暮らし。そのころ毎晩のように続く空襲は、日本中の大きな町を焼け野原にしていきました。7月10日夜、B29の大編隊、大阪の町に雨のように降ってくる爆弾、火の海は絹ちゃんたち親子3人にも容赦なく迫ってきます。お母さんは渾身の力をふりしぼって逃げようとしますが力尽きて動けません。3人で一緒に逃げようとする絹ちゃん。動けないお母さん。その時迫る炎の中でお母さんがとった行動とは・・・。				
22	しんちゃんのさんりんしゃ(アニメ)	24分	VHS DVD	—	人権啓発課
	(1998年) 広島原爆資料館にある赤錆びた1台の三輪車。このお話は、その三輪車にまつわる実話をもとに作られたものです。この三輪車は、広島市に住んでいた伸一君のものでした。伸ちゃんは当時3歳。となりの君ちゃんとの三輪車に乗って楽しく遊んでいて原爆にあいました。お父さんは庭の隅に、この2人を三輪車とともに埋めました。それから40年・・・。				
23	伸ちゃんのさんりんしゃ(ビデオ絵本1)	22分	VHS	—	人権啓発課
	(1998年) ～ストーリーはアニメ版と同じです～ 絵:おぼ まこと				
24	伸ちゃんの三輪車(ビデオ絵本2)	20分	VHS DVD	—	人権啓発課
	(1984年) ～ストーリーはアニメ版と同じです～ 絵:長澤 靖				

	トビウオのぼうやはびょうきです(アニメ)	19分	VHS DVD	—	人権啓発課
25	(1999年) いつも元気で明るいつビウオの坊やは、お母さんと空を飛ぶ練習をしていました。さんご礁の海の上をピューッと飛ぶトビウオの親子。「ぼく、とんだ、とんだ！！」と大喜びのトビウオの坊や。その時、突然火の玉のような大爆発が起こり、海の底はめっちゃめっちゃになりました。友達は死に、トビウオの坊やたちのお家も何もかも壊されてしまいました。そして、空から白い灰が降ってきたのです。それをかぶってしまったトビウオの坊やは病気になり、寝たきりになってしまいました。もうお父さんやお母さんと一緒に、空を飛ぶことはできないのでしょうか。一体なぜこんな事になってしまったのでしょうか。				
	ながさきの子うま(人形アニメ)	27分	VHS DVD	—	人権啓発課
26	(1989年) 昭和20年長崎の農家でとても元気のいい子馬が生まれました。名前を「いなさ号」といいます。夏のある日、広島にすごい爆弾が落ちて街は全壊したと、カラスが教えてくれました。沖縄もやられ日本中が戦場になろうとしています。「私は、大変な時にこの子を産んでしまった。」母馬は、爆弾の落ちてこない山に、いなさ号を連れて行こうと考えます。山で暮らせると聞いて飛び跳ねるいなさ号。その時、まるで太陽が丸ごと落ちたような光と大爆発。いなさ号は爆風で吹き飛ばされた馬屋の下敷きに。母馬は必死でいなさ号を助け出しました。しかし本当は、母馬も動けないほどの大怪我をしていたのです。				
	ひびけ月光の曲(ビデオ絵本)	38分	VHS	—	人権啓発課
27	(1998年) 敗戦も間近かな1945年の6月のある日、九州佐賀県鳥栖市の鳥栖国民学校に二人の飛行服を着た青年が訪れました。二人はもと音楽学校生で、特攻隊の出撃を明日にひかえ最後のピアノを弾きにきたのでした。その曲がピアノソナタ「月光」でした。				
	まっ黒なおべんとう(ビデオ絵本)	17分	VHS	—	人権啓発課
28	(1998年) 広島原爆資料館に、中身がまっ黒になったおべんとうが展示されています。このおべんとうの持ち主、広島第二中学校一年生の滋君は1945年8月6日、建物疎開の作業中、同級生全員とともに被爆しました・・・。				
	アフガニスタン難民～平和を知らない子どもたち～	18分	VHS	—	人権啓発課
29	(2002年) アフガニスタン難民。彼らは長い間、国際社会から見捨てられてきました。20年にもわたる戦争はおびただしい数の難民を生み出してきました。その中で生まれ育った子どもはまさに平和を知りません。ビデオはパキスタン国内のアフガニスタン難民キャンプで、1999年から2002年にかけて取材した映像を中心にアフガニスタン難民の子どもたちの“今”を伝えます。				
	せかいいちうつくしいぼくの村(アニメ)	16分	VHS DVD	—	人権啓発課
30	(2002年) 小林豊原作、同名の絵本のアニメ版。アフガニスタンのパグマンという村にヤモという少年が住んでいました。収穫の季節を迎え、ヤモは初めて街に果物を売りに行くことになりました・・・。この物語はヤモの成長の物語です。でも、今は村は戦争で破壊され、ヤモの一家もすでにここにはいません。ただ、砂塵がもうもうとしているだけです。				

31	ぼくの村にサーカスがきた(アニメ)	14分	VHS DVD	—	人権啓発課
	(2002年) 小林豊原作、同名の絵本のアニメ版。アフガニスタンのパグマンという村にヤモという少年が住んでいました。ヤモの友達のみらどーの父さんは、戦争で行方不明になっています。村に街に待ったサーカスがやってきて、みらどーは、そこで父の形見の笛を吹いたことで認められ、サーカス団に入団し村を離れることになりました…。今、二人の友情を育んだ美しいパグマンの村は戦争で破壊され、誰もいません。				
32	明日への伝言～私たちは戦争を知らない～	21分	VHS	—	人権啓発課
	(1998年) 熊本における戦災体験者の生の声を聞き、戦争を知らない子どもたちが、どう思っているのか、そして何をすべきかを一緒に考えたい。〈日本戦災遺族会 企画〉				
33	明日への伝言～小さな赤いトマト～	25分	VHS	—	人権啓発課
	(1999年) B-29の爆弾のゴミ捨て場とされた浜松。兄さんと一緒に食べようと、小さな赤いトマトを井戸に冷やしたまま死んだ少女がいる。奪われたささやかな幸せ。半世紀を経た浜松で、今、若い世代は奪われた平和―戦災の記憶を平和への祈りとして、明日へ伝えようとしている。〈日本戦災遺族会 企画〉				
34	明日への伝言～Smile Again～	30分	VHS	—	人権啓発課
	(2000年) 僕たちには、いつもと変わらない1日。でもあの日、6月29日、僕たちの知らないこの街の姿があった。僕たちの街岡山では、多くのものが失われた1日だった。〈日本戦災遺族会 企画〉				
35	明日への伝言～語りつぐもの～	26分	VHS	—	人権啓発課
	(2001年) 2001年、56年前に起こった“あの出来事”は、今を生きる私たちにはあまりにも遠い。でも、これは、昔話なんかじゃない。忘れてはいけない、伝えていかなければならない記憶なのだ。失われつつある空襲の傷跡を、岐阜、東京、川崎を訪ね、その思いを今に伝えます。〈日本戦災遺族会 企画〉				
36	明日への伝言～私たちの町にも空襲があった～	26分	VHS	—	人権啓発課
	(2002年) “泣いてばかり悲しんでばかりいてはダメだ。これは死んでるのと同じだ。それじゃ申し訳ないよ、死んだ坊やや夫に” 昭和20年7月10日の仙台空襲で、家族全員を失いながらも、力強く生きてきたおばあさん。空襲の体験をもとに、若い世代に戦争の悲惨さを語る。〈日本戦災遺族会 企画〉				
37	炎の証言 ～鎮魂の祈り～	30分	VHS	—	人権啓発課
	第2次世界大戦での日本本土の空襲等の状況や被害状況を、戦災体験者の証言を交えて描き、戦争の悲惨さや愚かさ、平和の尊さを訴えます。				

	かんからさんしん(アニメ)	78分	VHS DVD	—	人権啓発課
38	<p>(1989年)</p> <p>太平洋戦争の末期、沖縄の津堅島—13歳になったばかりのマサ。人一倍責任感の強い少年は、兵隊に行ってしまった父から預かった家宝を背負い、母親や妹を必死に守ります。沖縄本土が猛烈な爆撃を受け陥落、ついに津堅島にアメリカ軍が上陸してきます。人々が避難していた洞窟の入り口は爆破され、島は完全に包囲—日本軍に「全員自決」という命令を下され、悲壮な決意で手りゅう弾を手にしたみんなが「最後」を覚悟したそのとき…洞窟の外、はるか遠くから聞こえてくる島唄。歌声は呼びかけます。「みんなが死んだら誰がこの唄を歌い継いでいきますか？」と。そのときマサは手づくりの三味線を響かせ…</p>				
	はだしのゲン(アニメ)	90分	VHS	—	人権啓発課
39	<p>(1983年作品)</p> <p>1945年8月6日、広島での被爆体験をテーマにベストセラーとなった劇画が原作。この映画は、戦争中の広島で中沢家の人々の生活を中心に始まる。ゲンの父親は戦争反対を叫び続けるために軍部につかまり、拷問や弾圧に耐えながら戦争反対を叫び続ける。そのためゲン一家は非国民呼ばわりされ続けるが、みんなで力をあわせ明るく楽しい家庭をつくっている。そんな明るい家庭も原爆投下によって、一瞬に破壊してしまう。父、姉、弟は家の下敷きで死んでしまう。残された母とゲンは、廃墟のヒロシマで、死んだ父、姉、弟の分まで生きようと誓う。原爆によって受けた苦しみに負けることなく、力強く生きる姿が、子供たちに平和の尊さを訴え続ける。</p>				
	はだしのゲン-2(アニメ)	90分	VHS	—	人権啓発課
40	<p>(1986年作品)</p> <p>「はだしのゲン」の続編。今回の作品では、小学校4年生に成長したゲンを中心に、原爆孤児たちが、廃墟の広島で明るく生きていく姿を描いています。エンコウの政、ドングリ、カッチン、ムスビ、そしてケロイドの少女勝子。それぞれが悲しみと苦しみをのりこえて、健気に生き抜いている姿が観る人の心をゆさぶり、感動を呼び起こします。</p>				
	一分のすきもなく武装して —世界にはびこる小型武器の現状—	28分	VHS	字幕 吹替	人権啓発課
41	<p>(2000年作品)</p> <p>ドキュメンタリー。今、世界には全人口の10人に一人が手にすることができるほど、多くの銃が存在します。このドキュメンタリービデオは、小型武器の不正な取引が広まり、容易に手に入れることができる現状に焦点を当てたものです。なによりも憂慮されることは、子どもたちでもこのような小型の武器を手に入れることができる現状です。(日本語版製作:国連広報センター、人権教育啓発推進センター)</p>				
	戦争の傷あと(ドキュメンタリー)	31分	VHS	字幕 吹替	人権啓発課
42	<p>(2000年作品)</p> <p>戦争が残した影響は、戦争が行われた期間と同じくらい長引く問題です。和平協定などで戦争が終結しても、その影響はすぐさま消えるわけではありません。実際の戦闘が終わっても深く大きな傷跡が一般市民に残ります。それは、残された爆弾、地雷による身の危険、戦争が残した社会崩壊、そして人々の心の中に残された傷跡などです。このビデオは戦争の傷跡から立ち直ろうとする市民たちのドキュメンタリーです。(日本語版製作:国連広報センター、人権教育啓発推進センター)</p>				

43	劣化ウラン弾の嵐	80分	VHS	—	人権啓発課
	(2000年作品) アルジャジーラTV製作。アメリカ主導の多国籍軍は湾岸戦争で「劣化ウラン弾」を使用しました。この兵器により、ガンと白血病が大量発生し、今なおイラクの子ども、大人たちを苦しめています。その被害は参戦した多国籍軍の兵士にまで及んでいます。中東カタールの衛星テレビ局アルジャジーラが、イラクだけでなくアメリカ、イギリス、ドイツなどで取材し劣化ウラン弾の被害実態を報告したものです。				
44	劣化ウランの恐怖	35分	VHS	—	人権啓発課
	(1997年制作) 1991年の湾岸戦争でアメリカは初めて「劣化ウラン弾」を使った。戦車から4千発、空からは100万発もの劣化ウラン弾がイラクの地に放たれた。劣化ウランとは核兵器や原発で使うウランを濃縮した残りカスで、原価はタダ同然、極めて無責任な考えの下に利用された。この問題をアメリカの市民運動が暴露する中で、97年に制作されたもの。イラクの子どもたちの実写映像、キャロル・ピコー(元陸軍二等曹長)の証言など劣化ウラン弾の危険性を余すところなく描き出している。				
45	クロがいた夏(アニメ)	80分	VHS	—	人権啓発課
	(1990年作品) このアニメは、「はだしのゲン」で知られる中沢啓治さんが、被爆当時飼っていた子猫との体験をもとにしています。戦争という時代の中で子猫の生命を守るために力をあわせる子どもたちと家族、その生命を一瞬にして奪い去った「ゲンバク」を対比させ、生命の重さと「三度許すまじ原爆を」と呼びかけます。				
46	対馬丸—さようなら沖縄	75分	VHS DVD	—	人権啓発課
	「対馬丸遭難事件」は、1,661人の乗客のうち、生存者がわずか156人という惨事です。犠牲者は罪もない幼い子、一般人ばかりという、他に類を見ない悲劇でしたが、戦後まで知らされませんでした。沖縄は太平洋戦争で唯一地上戦が繰り広げられ、多くの市民が犠牲になったところで、人々は「疎開に行くも地獄、残るも地獄」という窮地に立たされていたのです。				
47	明日への伝言～雨にぬれた碑	25分	VHS	—	人権啓発課
	(2003年作品) 高松空襲から58年が経ち、遺族の待ち望んだ慰霊碑が完成した。初披露の日は、静かな雨が降り続いた。そこには、多くの名前が刻まれている…。				
48	明日への伝言～ほむらいろの空	25分	VHS	—	人権啓発課
	(2004年作品) 描きはじめると、忘れかけたあの夜のことが、次々と蘇ってきた。…母が後押ししてくれているようにさえ思えた。				
49	100ばんめのサル(アニメ+ドキュメンタリー)	20分	VHS	—	人権啓発課
	(1986年作品) アニメーションと「核」についてのドキュメンタリーフィルムで構成した、こどもにもおとなにも核の怖さがよくわかる作品です。○国際平和祈念作品 ○原作:ケン・キース・ジュニア ○ナレーション:吉永小百合				

50	地球の風ぐるま(ドキュメンタリー)	32分	VHS	—	人権啓発課
<p>被爆の実相を子どもの目線で伝える小学、中学、高校生用学習教材ビデオ。 [内容] ① 被爆の実相・・・ヒロシマ・ナガサキ ② 強く生き抜く被爆者・・・証言:西本宗一さん・小峰秀孝さん・田戸サヨコさん 山田寿美子さん・真実井房子さん・松谷 英子さん ③ ボクたちに何ができるか～核のない21世紀へ～ ○「核実験被爆者と高校生のつどい」 ○「ふりそでの少女像」づくりの取組 ○核兵器廃絶に向けての世界の子どもたち</p>					
51	地雷を踏んだ象「モータラ物語」	24分	VHS	—	人権啓発課
<p>(ドキュメント)知っていますか?地雷の被害。 像のモータラは、人間と一緒に森で伐採の仕事をしていました。ところがある日、彼女は地雷を踏んでしまったのです!左の前足首が砕け散ってしまったモータラは世界で初めてできた像の病院で大手術を受けることに・・・。戦争や紛争が続き、世界各地に埋め込まれたまま今も残る数千個の「地雷」は人間だけでなく動物たちをもその“犠牲者”にしているのです。</p>					
52	かっぱせ!ドリーマーズ(アニメ)	86分	VHS	—	人権啓発課
<p>(1994年作品) 広島カープ誕生秘話。原爆焦土の中から誕生した市民の球団“広島カープ”に夢を託し、草野球に熱中した少年たちの物語。</p>					
53	つるにのって(アニメ)	27分	VHS DVD	字幕 副音声	人権啓発課
<p>未来の大人たちに、核兵器や放射能の恐ろしさと、平和づくりへ自ら参加することの大切さを訴えたもの。</p>					
54	明日 TOMORROW	105分	VHS	—	人権啓発課
<p>1945年8月8日長崎、原爆投下24時間前。そこには愛が、友情が、魂が……。数々の映画賞を独占した感動の名作。</p>					
55	1フィート運動でつづるドキュメント沖縄戦	57分	VHS DVD	—	人権啓発課
<p>アメリカ国立公文書館の2000タイトルを越えるフィルムを57分にまとめ、平和の尊さと命の大切さを訴える(1995年)</p>					
56	よっちゃんのビー玉(ビデオ絵本)	24分	VHS DVD	—	人権啓発課
<p>(1997年作品) ヒロシマで被爆死した4才の少年・よっちゃんと出征した兄・実雄(19才)の実話をもとにしたビデオ絵本。 (No97 アニメ版(58分)があります)</p>					

	原爆ドーム物語	15分	VHS	—	人権啓発課
57	<p>戦争が終わり「70年間は草も木も生えない」といわれた広島は、都市の姿を取り戻しましたが、原爆ドームだけは、被爆直後の姿のまま残っています。戦後50年を経た今日、日本人の核体験の風化が言われて久しく、また同様に原爆ドームも歳月の侵食にさらされています。〈原爆ドーム〉が、いま改めて平和を訴えます。</p>				
	わたしたちと原発	15分	VHS	—	人権啓発課
58	<p>「原発って、なんだ?」「原発が電気を生み出す仕組みは?」「原発と原爆は同じもの?」「放射性物質って、どんな影響があるのだろうか?」ビデオではこれらの疑問にわかりやすく答えながら、プラス・マイナス、どちらの面でも私たちの暮らしに大きな影響をもたらす原発の本質に迫ります。</p>				
	「被爆者語り部」 伝えていこうこのことを 平和記録ビデオ	111分	VHS	—	人権啓発課
59	<p>(2005年作品) 内外に多くの犠牲者をだした第2次世界大戦が終わってから、60年が経過しました。しかし世界各地では地域紛争が続き、核実験が行われるなど恒久平和には程遠い状況にあります。戦後60年という節目の年に、「戦争は最大の人権侵害」との認識の下に、風化しつつある被爆体験、戦争体験を後世に正しく伝えるため、「東大阪市原爆被爆者の会」の協力を得て、東大阪市在住の4人の「語り部」の方に被爆体験を語っていただきました。平和の尊さと大切さを改めて認識する学習教材としても活用してください。東大阪市と(株)東大阪ケーブルテレビの共同制作です。</p>				
	ちいちゃんのかげおくり(アニメ)	17分	VHS DVD	—	人権啓発課
60	<p>戦争がはげしくなるにつれ、ひとりぼっちになったちいちゃんは、一人で「かげおくり」をします。そこにはにこにこ笑う4人のかげぼうしが。家族のささやかな幸せをも奪った戦争の悲しみが伝わってくる作品です。</p>				
	一つの花(アニメ)	23分	VHS DVD	字幕 副音声	人権啓発課
61	<p>今西祐行さんの同名作品をビデオ化したものです。終戦間誓い1944年の夏、食べ物も不足していました。幼いゆみ子が覚えた最初の言葉は、「一つだけちょうだい」でした。戦地に向かうお父さんが渡した一本のコスモスの花に込められた、愛情と悲しみを考えてほしい作品です。小学校中学年向き。</p>				

62	おばけ煙突のうた(アニメ)	42分	VHS	—	人権啓発課
<p>原作 早乙女勝元。見る角度によって2本になったり3本、4本と変わる「おばけ煙突」はかつて、東京下町の人気者でした。1944年(昭和19年)夏、弱虫のカッチンと強くてがんばり屋のガンちゃん は小学6年生で大の仲良しです。学校では勉強よりも体力づくりばかり、カッチンはいつのガンちゃん に助けられています。ある日、ガンちゃんはカッチンに「おばけ煙突」にロープを張って空中を渡 るという夢を話します。しかし、戦争が激しさを増し、子どもたちも疎開します。翌年3月に戻ってき た彼らを温かく迎える「おばけ煙突」。3月10日、みんなが東京に帰ってきた次の日、東京の空を B29が……。小学校高学年向き。</p>					
63	君知ってる？ 首都炎上ーアニメ東京大空襲	18分	VHS	—	人権啓発課
<p>1945年3月10日の東京大空襲は、一夜にして10万人以上の生命を奪ったことをあなたは知って いるだろうか？ かりうじて生き残った3人の体験者の実話をもとに、その惨状をアニメーションで再 現し、記録フィルムと写真をまじえて戦争の悲惨さを伝えています。～小学校～一般まで。</p>					
64	<p>明日への伝言 ～祈りかさねて～</p>	30分	VHS	—	人権啓発課
<p>(2005年作品) 神戸60年目の記憶 60年前の戦争の出来事を記憶のどこかに残すこと。</p>					
65	黒い雨にうたれて(アニメ)	90分	VHS	—	人権啓発課
<p>原爆がもたらした“死の灰”は、今なお人体に影響を残していた。「はだしのゲン」の作者・中沢啓 治が描く愛と感動のアニメ大作。</p>					
66	猫は生きている(人形劇)	75分	VHS	—	人権啓発課
<p>(2005年作品) 昭和20年3月10日夜、米軍のB29が東京を火の海にした。昌男の家族や猫の家族は必死の避 難を始めます。戦火の中、昌男や猫の家族は助かるのでしょうか。</p>					
67	象のいない動物園(アニメ)	78分	VHS	—	人権啓発課
<p>(2005年作品) 戦争のために殺された動物園の動物。その悲しい出来事と、戦争が終わり、一生懸命生きる子ど もたちの『象を見たい』という熱意が政府を動かし、象を呼び寄せるという、本当にあったエピソード をもとに作られたお話。</p>					

	石の声～沖縄戦マラリア地獄の記憶～(アニメ)	26分	VHS DVD	—	人権啓発課
68	<p>(1992年作品)</p> <p>あの凄惨な沖縄戦。弾雨によって20万人余の尊い命が奪われた。しかし、沖縄戦の犠牲者はそれだけではなく。1945年4月、日本軍は日本最南端で家畜の多い波照間島の食料調達のため、島民を一人残らずマラリアの蔓延する西表島に強制移住させた。そのため、ほとんどの人々が罹患し、島の人口の3分の1が犠牲になった。</p>				
	明日への伝言～イタンキ浜の夏～	25分	VHS	—	人権啓発課
69	<p>(2006年作品)</p> <p>室蘭 艦砲射撃の爪痕</p> <p>1945年7月15日9時36分、室蘭沖28キロ。アメリカ第3艦隊の艦砲射撃が火を噴いた。わずか1時間のうちに、重さ1トンの砲弾 860発が北海道、室蘭に撃ち込まれました。街は破壊され、人々のきずなは一瞬のうちに吹き飛ばされました・・・</p>				
	チョッチャン物語(アニメ)	80分	VHS	字幕 副音声	人権啓発課
70	<p>この映画は、戦後50年を記念し、黒柳徹子さんの母親でエッセイストとして又世界の子どもたちを貧困と飢餓から救うために世界的に活躍されている“チョッチャン”こと黒柳朝さんの自叙伝『チョッチャン物語』(金の星社刊)をもとにアニメーション化されたものです。「チョッチャン」が同じオーケストラ団員の黒柳守綱さんと結婚、「徹子(トットちゃん)」「明児」「紀明」が生まれますが、昭和16年ついに戦争が始まります。激動の時代を、家族の絆を大切に明るく逞しく生きてきた黒柳朝さんの生き方をモチーフに「平和の大切さ」「生命の尊さ」を描いています。</p>				
	リトルバーズ イラク戦火の家族たち	102分	DVD	字幕	イコーラム
71	<p>(2005年作品)</p> <p>空爆で3人の子供を奪われた父親とクラスター爆弾によって右目を負傷した少女を軸にバグダッド、アブグレイブ、サマワなどイラクを舞台に戦火の中で、懸命に生きる人々の姿を丹念に紡いだドキュメンタリー映画です。</p>				
	明日への伝言—ふるさと・平和への調べ	30分	VHS	—	人権啓発課
72	<p>(2007年作品)</p> <p>鹿児島 忘れがたき空襲の記憶</p> <p>八回もの大きな空襲を受け、壊滅的な被害を受けた鹿児島市。降り注ぐ焼夷弾の雨。炎につつまれ、市内のほとんどが焼け野原となり、数多くの一般市民の命が奪われた・・・。</p>				
	夏服の少女たち	18分	VHS	—	人権啓発課
73	<p>対象: 中学～一般</p> <p>つかの間の青春を精一杯生きて原爆の犠牲となった少女たちと、残された親たちの悲しみをアニメーションとドキュメンタリーを合成して描いています。</p>				

	ヒロシマのピカ(ビデオ絵本)	25分	VHS	—	人権啓発課
74	<p>小学校～一般</p> <p>原爆は、誰も目を背けたくなる地獄図です。しかし、目をそらすわけにはいきません。「原爆図」の世界的作家、丸木俊さんの絵本をビデオ化したもの。</p>				
	さようならカバくん	25分	VHS	—	人権啓発課
75	<p>小学校～一般</p> <p>昭和20年、戦争下の上野動物園でかろうじて生き延びた二頭のカバと、そのカバを助けようとする二人の兄弟の物語です。</p>				
	明日への伝言 ～語りつぐ炎の記憶～	30分	VHS	—	人権啓発課
77	<p>(2008年作品)</p> <p>これまでの「明日への伝言」の作品のダイジェストと青森空襲を伝える活動をされている方のメッセージの紹介がされています。</p>				
	ぞう列車がやってきた(アニメ)	80分	VHS DVD	—	人権啓発課
78	<p>この作品は、戦争から象を守りぬいた人々の優しさと勇気を子どもたちの視点から描くとともに、夢も希望もなくした戦後、「象を観たい」「象に会いたい」という東京の子どもたちが、「平和」の象徴として「ぞう列車」を走らせるまでを描きます。</p>				
	核戦争	15分	VHS	—	人権啓発課
79	<p>「核ってなに？ 核戦争になったらどうなるの？」</p> <p>この作品は、数百年生きてきたカエルが戦争の歴史を語っていくことからスタートします。戦争の歴史は、兵器の発達も歴史でもありました。原爆は通常の爆弾とは全く違い、その爆発によるエネルギーは、被爆者を肉体的にも、精神的にも苦しめ続けます。現在、私たちは核兵器の脅威のまっただ中に生きています。核問題の本質を科学的、論理的に、子どもたちに伝え、核兵器の恐ろしさと平和の尊さを考えさせる作品です。</p>				
	もうひとつの沖縄戦記	30分	DVD	—	人権啓発課
80	<p>この作品は、子どもとして悲惨な沖縄戦を経験した方々の体験談を参考に、同じ年頃の子どもの朗読による22の証言で構成されています。これまでの戦争ドキュメンタリーとは違った、子どもの視点での作品となっています。作品の大半の動画及び静止画部分は、米国国立公文書館より収集したもので、カラー映像が多く取り入れられています。</p>				

	火垂るの墓(アニメ)	88分	VHS DVD	—	人権啓発課
81	<p>終戦間近の神戸に突然B29の大編隊が襲いかかった。清太と節子の兄妹は空襲の混乱の中、母親を亡くし、家を焼け出される。路頭に迷った兄妹はやむなくお婆の家へ身を寄せることにするが、そこでも生活が苦しくなるにしたがってお婆とのいさかいが絶えなくなり、清太は家を出る決心をする。荷物をリヤカーに積み込み、横穴壕でままごのような二人の新しい生活が始まるが、やがて食糧も尽き……。</p>				
	忘れてはイケナイ物語り 野坂 昭如 戦争童話集①	64分	DVD	—	人権啓発課
83	<p>ほんの少しだけ遠い昔、戦争がありました。戦争は、一人ひとりにさまざまな物語りを与えました。思い出したくもない悲しい物語りも、目を覆ってしまうような悲しい情景も。でも、もう二度と戦争が起これないように、その“物語り”は語り継がれていきました。なぜなら、“忘れてはイケナイ物語り”だから……。</p> <p>●小さい潜水艦に恋をしたでかすぎるクジラの話(NA:大塚寧々) 日本海軍の潜水艦を自分の仲間だと思い込んで恋をしてしまった一頭のクジラ。人間を疑うことを知らないクジラの、一途な思いが、胸を打ちます。</p> <p>●凧になったお母さん(NA:中山千夏) 戦火の中を逃げまどう、カッチャンとお母さん。お母さんは、カッチャンのために必死に子守歌を歌います。「どうせ死ぬのなら、苦しみ少なく」と歌います。</p> <p>●年老いた雌狼と女の子の話(NA:宮沢りえ) 年老いた狼が死に場所を求めてさまよい歩いている時、病気で捨てられてしまったキクちゃんという女の子に出会います。さて、狼と一人ぼっちのキクちゃんの運命は？</p>				
	忘れてはイケナイ物語り 野坂 昭如 戦争童話集②	72分	DVD	—	人権啓発課
84	<p>●青いオウムと痩せた男の子の話(NA薬師丸ひろ子) 小さな防空壕の中でオウムと男の子が住んでいました。オウムは爆撃のショックで言葉を忘れていましたが、やがて男の子を励ますように、しゃべりはじめます。</p> <p>●干からびた像と像使いの話(NA:藤村志保) 戦争になり、動物園の動物たちの処分されることになりました。像を殺せと命令を受けた像使いのおじさんは像を連れて動物園を逃げ出し、スリリングな旅に出ます。</p> <p>●赤とんぼと、あぶら虫(NA:寺尾聰) 赤とんぼと呼ばれる小さな飛行機に乗って、敵機に突っこんでいく特攻隊。しかし、突っこみそこなって帰るところもなく、南の島に不時着した少年飛行士は……。</p>				

	忘れてはイケナイ物語り 野坂 昭如 戦争童話集③	70分	DVD	—	人権啓発課
85	<p>●八月の風船(NA:小林薫) 日本軍の秘密兵器“ふ号兵器”。大きな風船に爆弾を仕掛け、ジェット気流にのせてアメリカ本土を直接攻撃する実際にあったお話です。</p> <p>●捕虜と女の子(NA:桃井かおり) 日本軍に捕らえられた捕虜のステイブは、焼け落ちた収容所から逃げ出し、人気のない横穴壕で小さな女の子に出会います。二人の待ち受ける運命は・・・。</p> <p>●ソルジャーズ・ファミリー(NA:黒柳徹子) 食料のない南の国にとり残された兵士たちを飢えがおそいます。三百人いたのが、いまでは五人に。若くて元気だった兵士も、夢の世界をさまよいはじめました。</p>				
	忘れてはイケナイ物語り 野坂 昭如 戦争童話集④	79分	DVD	—	人権啓発課
86	<p>●馬と兵士(NA:藤竜也) 馬が大好きな兵士は、爆弾で傷ついた馬と兵舎を逃げ出します。脱走兵となった兵士は、馬と一緒に死ぬのなら、死ぬ前に自由になれたんだからと思うのでした。</p> <p>●ぼくの防空壕(NA:吉岡秀隆) お父さんが戦地に出かける前に一生懸命掘って作ってくれた防空壕。そこに入れば、少年はそばにはいつだって戦死したお父さんが寄り添って励ましてくれます。</p> <p>●焼跡の、お菓子の木(NA:野坂昭如・愛耀子) なにもない焼跡で子どもたちが見つけた、いい匂いのする不思議な木。空襲で死んだママの熱い思いが育てたお菓子の木、大人たちは誰もこの木に気がつきません。</p>				
	いわたくんちのおばあちゃん(アニメ) ～ぼく、戦争せんけえね～	20分	VHS DVD	—	人権啓発課
87	<p>(2009年作品)</p> <p>今日は運動会。友だちのいわたくんと競走して負けた寛太は、少しふくれ気味だ。みんなで記念写真を撮ろうということになり、お母さんがシャッターを押そうとすると、いわたくんちのおばあちゃんは「いやーよ」と手を振って断った。なぜ？このアニメの主人公、寛太は現代の小学生です。寛太は、おばあちゃん(ちづこさん)の話しを聞くうちに、原爆のことや戦争のことを自分の問題としてとらえ、平和への決意をしていきます。この作品は、昭和20年8月に起こった実際のお話しがもとになっています。</p>				
	煙突屋ペロー	23分	VHS	—	人権啓発課
88	<p>トム・タム国の煙突屋ペローは、ハトを助けたお礼に「兵隊に出る卵」をもらいました。ペローは王子様の乗る汽車を壊してしまい、死刑を宣告されます。ちょうど戦争が始まり、ペローは「兵隊の出る卵」を使って手柄をたて、許されて田舎に帰ることになりました。しかしその帰り道、ペローの見たのは痛ましい戦いの傷跡だったのです。</p>				
	私たちが伝える被爆体験 一世代を越えて伝える平和一	20分	DVD	—	人権啓発課
89	<p>被爆者、故吉田勝二氏の被爆体験談講話をもとに、長崎市内の中学生たちが紙芝居を作成し継承活動を行う様子などを収めた作品。</p>				

90	アフガニスタン難民～いまを生きる女性たち～	20分	VHS	—	人権啓発課
	<p>アフガニスタン難民。彼らは長い間、国際社会から見捨てられてきました。20年にもわたる戦争はおびただしい数の難民を生み出してきました。その中で生まれ育った子どもはまさに平和を知りません。ビデオはパキスタン国内のアフガニスタン難民キャンプで、1999年から2002年にかけて取材した映像を中心にアフガニスタン難民の子どもたちの“今”を伝えます。</p>				
91	戦場で傷ついた子どもたち ～ドイツ国際平和村の10年～	97分	DVD	—	人権啓発課
	<p>テレビ番組「世界ウルルン滞在記」で10年にわたって取材された記録 「平和とは何か」を問いかける10年間の記録映像 ドイツ国際平和村は、世界各地で続く紛争や内戦で傷ついた子どもたちを受け入れ、治療を施し、リハビリ指導をし、母国へ帰す活動をしてきた。これまで世界54カ国2万8千人の幼い命を救ってきた。「平和村がなくなることが私の夢だ。」そう語って活動を牽引してきた代表・ゲーゲン・フルストナーは2009年9月10日に亡くなった。今なお世界では紛争や内戦が続き、平和村にやってくる子どもの数はいっこうに減らない。 ① 平和村との出会いとアンゴラの子どもたち(50分) ② 9・11世界同時多発テロとアフガニスタンの子どもたち(47分)</p>				
92	ヒロシマの記憶 ～幻の原爆フィルムで歩く広島～	35分	DVD	—	人権啓発課
	<p>(2005年) 1945年ヒロシマの廃墟。その映像は日本人カメラマンの手で後世に伝えられました。原爆調査の一環として行われた日本映画社の撮影は、原爆投下の2ヶ月後のことである。ハイビジョン映像としてよみがえった原爆映像に現在の映像とインタビューを交え、立体的に広島の記憶をたどります。</p>				
93	沖縄戦の図 ～佐喜眞美術館へのいざない～	30分	VHS	—	人権啓発課
	<p>沖縄の佐喜美術館に展示されている丸木位里・俊の描いた「沖縄戦の図」は、地上戦である沖縄戦を体験した方々の証言に基づき、その人々がモデルになって描かれたものです。「沖縄戦の図」は、地上戦を国内で唯一体験した沖縄の人々に沖縄戦のことを教えてもらいながら戦争でいんげんがどのように破壊されるのかを描きそのことをしっかり見て、戦争をしない歴史を歩んでほしい、という丸木夫妻の願いが込められています。</p>				
94	～元米海兵隊員 アレン・ネルソンが語る戦争と平和～	50分	DVD	—	人権啓発課
	<p>ネルソンさんは、ニューヨーク出身のアフリカ系米国人貧困家庭に育ち、その環境から抜け出そうと18歳で海兵隊に入隊、沖縄基地で訓練後、ベトナム戦争に従軍しました。除隊後、心的外傷後ストレス障害(PTSD)に苦しみ、何度も自殺を試みましたが、カウンセリング治療などで回復。1995年米兵による沖縄少女暴行事件をきっかけに来日して1000回を超える講演会で訴えました。講演会の映像や関係者のインタビューのほか、アニメなどで、ネルソンさんの遺志を受け継ごうと関係者がDVDにまとめました。</p>				

95	長崎の記憶 ～幻の原爆フィルムで歩く長崎～	37分	DVD	—	人権啓発課
	(2009年) 長崎に原爆が投下されて2カ月。焦土の風景と苦しむ被爆者は日本人の手によって撮影されました。当時、日本映画社のスタッフが撮影したフィルムには治療を受ける人々や医師と看護師、焼き尽くされた建物、ガレキに埋まる町の様子が映し出されています。 このフィルムは1946年「広島・長崎における原子爆弾の効果」という映画となって海をわたり、米軍の教材になりました。現存する未編集フィルムはハイビジョン処理され、これまでより詳細な状況が確認できるようになりました。この作品は、被爆者の証言を交えながら、当時を振り返ります。				
96	平和朗読劇 今は春べと 咲くやこの花	34分	DVD	—	人権啓発課
	(2015年) 被爆当時、山里国民学校の教師だった山崎壽子さんの、今まで誰にも語る事がなかった被爆体験をもとに創作された平和朗読劇。				
97	よっちゃんのビー玉	58分	DVD	—	人権啓発課
	(1997年) 1945年、戦争が激しくなり、よっちゃん(4歳)の大好きな兄・実雄(19歳)は出征することになりました。広島駅で兄を泣きながら見送ったよっちゃんは、その後、被爆死します。その手には兄がくれたビー玉を握りしめていました。一方、死を覚悟して出征した兄は生きて帰ってきます。この作品は実話をもとにした長編カラーアニメーションです。				
98	広島原爆 魂の撮影メモ	29分	DVD	—	人権啓発課
	(2017年作品) 「説明の出来ない心、次から次へ自分を追い越していくものがある」 幻の原爆映画といわれた原爆被災記録映画「広島・長崎における原子爆弾の影響」。この映画の生物班の撮影に携わった、カメラマン鈴木喜代治が記した一冊の撮影メモから、当時の広島の惨状と平和の尊さを伝えます。				
99	ヒロシマナガサキ核戦争がもたらすもの	46分	DVD	—	人権啓発課
	(1982年作品) 核兵器が巨大化、高性能化した今日であればこそ、その事実を日本の全ての人に、世界の全ての人に、知ってもらう必要がある。物理的破壊力。それによって人間生活の基盤である社会そのものを奪った事実。瞬間、大量の殺傷。人体を長期にわたって苦しめつづける放射線傷害。これら一つ一つの事実と総合的被害の実相は、今日あるいは明日の核戦争を予感させる未来への警告である。この映画は、科学者たち報告を集大成した書物「広島・長崎の原爆災害」に基づき、あくまでも科学的な視点から、原子爆弾被爆の総合像を描こうとした記録映画である。				
100	涙に浮かぶ記憶 戦争を次世代に伝えて	28分	DVD	字幕	人権啓発課
	(2017年作品) 中学生人権作文コンテストで法務大臣賞を受賞した作文「戦争を次世代へ伝えて」を映画化。観念的にしか戦争を捉えられない人々が増えている中で、戦争体験者が次世代に戦争の悲惨さを伝える重要性がますます高まっていることを訴えます。				

	戦場ぬ童	26分	DVD	—	人権啓発課
101	(1985年作品) 鉄の暴風をかいくぐり、地獄の戦場をさまよった人々の生々しい証言をもとに、沖縄戦の実態を子どもたちにマトをしぼって描いた作品。ガマ(洞窟)に今も残る累々たる白骨と遺品、その上に傲全と居すわる米軍基地、自衛隊基地など長年に渡る深い傷跡も描いています。戦争とはどんなものだったかを、戦争を知らない世代に知らせたい、戦争を絶対に起こしてはいけないと訴えています。				
	沖縄戦の証言 1フィートの映像と戦争体験者の証言でつづる	35分	DVD	—	人権啓発課
103	(2005年作品) 子どもたちから大人まで、すべての世代に理解してもらうために編集された沖縄戦記録作品。米軍の記録フィルムと戦争体験者の証言をもとに編集。				
	軍隊がいた島 ～慶良間の証言～	38分	DVD	—	人権啓発課
104	(2009年作品) 沖縄戦下の沖縄・慶良間諸島で起きた「集団自決」(強制集団死とも)の真実を米軍の記録フィルムと戦争体験者の証言で明らかにするドキュメンタリー。				
	沖縄戦 未来への証言 沖縄から世界へ平和のメッセージ	完全版55分 普及版32分	DVD	—	人権啓発課
105	(1986年作品) 米軍の記録フィルムから編集した沖縄戦ドキュメント。沖縄から全世界の人に平和のメッセージを届けるために制作されたもの。				
	ひめゆり HIMEYURI アニメ	30分	DVD	—	人権啓発課
106	(2012年作品) 亡くなった学友とあの戦争のことを多くの人たちへ伝えなければならない—戦後、44年の歳月を経た1989年、私たちはひめゆり平和祈念館をつくり、来館する方々へ自らの戦争体験を語りづけてきました。そして、戦争のこと、ひめゆり学徒隊のことを、小さい子どもたちにもわかってもらう方法はないかと模索するなかで生み出されたのがこのアニメ「ひめゆり」でした。このアニメ「ひめゆり」を多くの方々にご覧になっていただき、平和への思いが次の世代へつなげていくことを願ってやみません。				
	The A-bomb ヒロシマで何が起こったか	46分	DVD	ナレーション選択可能	人権啓発課
107	(2016年作品) 広島ローカル放送局である中国放送と、原爆投下直後の1945年秋に広島を撮影した未編集フィルムを所有する日映映像とが、共同でハイビジョン化した原爆フィルムを元に制作された教育用映画です。この映画の特徴は、広島原爆を『熱線』被害、『爆風』被害、混乱を極めた『救護活動』、長期にわたる『放射線』被害の4項目に分け、当事者の証言インタビューを織り交ぜながら、原爆を知らない若い世代にも分かりやすい内容で伝えています。				
	原爆 ヒロシマ 被爆の街と被爆建物(3枚組)	65.55.75分	DVD	—	人権啓発課
108	(2009年作品) 今まで日本の一部でしか公開されていなかった貴重なカラー映像(被爆直後の灰燼に帰した街の風景と人々)と半世紀有余の時を経て今なお残る歴史の証言者でもある被爆建造物・・・映像の対比を通して、原爆とは何か、戦争とは何かということを考えさせられる作品です。				

	アゲハがとんだ 1945.3.10東京大空襲	20分	DVD	字幕	人権啓発課
109	(2019年作品) 1945年3月10日の東京大空襲をテーマに、戦争の悲惨さと平和の大切さを訴える平和アニメーション。のどかな学童疎開の風景と、激しい空襲の様子、最後に飛び立つアゲハの震えるほど美しい様子を対比させ、見る人の心を揺さぶる教材となっています。				
	1945. 8. 6・8. 9 ～語り継ぐ 未来へ～	34分	DVD	—	人権啓発課
110	(2020年作品) 戦後75年を節目に、2018年6月まで活動していた東大阪市原爆被害者の会の語り部お二人に協力いただき収録しました。戦争を知らない世代に、小中学生の時の被爆体験を伝えます。 ※広島編 約20分、長崎編 約10分				
	まっ黒なおべんとう(アニメーション映画)	49分	DVD	—	人権啓発課
111	(1990年作品) 『原爆が一つでもあるかぎり平和じゃないですけえのう 折免 シゲコ』 原爆資料館の近くで被爆した、まっ黒なおべんとうに秘められた実話をもとに作られました。このおべんとうは、広島第二中学校1年生折免滋君のものでした。建物疎開の作業中に被爆し、同級生350人は全員亡くなりました。				